

—概要—

病院職員6名(診療情報管理士5名・事務員1名)が一丸となって病院内における課題に対処すべく次の業務に取り組んだ。

1. 診療記録に関する運用等管理
2. 紙診療録の保管運用等、病歴室の業務遂行における調整管理
3. スキャナ業務に関する管理
4. 診療記録の点検、監査、精度改善
5. 傷病名コーディング(国際疾病分類 ICD-10 に基づく)
6. 各統計作成と分析(国際疾病分類 ICD-10 に基づく)
7. 院内職員の診療情報等二次利用に対する支援
8. 患者に対する診療情報提供(カルテの開示)
9. DPC コーディングの適正化支援
10. DPC データ等を用いた分析及び報告
11. DPC 制度にかかる調査
12. 院内がん登録全国集計
13. 地域がん登録
14. 大阪府がん診療拠点病院に関連する業務
15. 新任職員への診療録等に関する研修
16. 情報セキュリティ研修(HI-UP 研修)
17. 傷病名マスタの管理
18. 電子サマリシステムの保守
19. クリニカルパスの運用支援
20. 診療情報管理委員会をはじめとした各委員会の事務局及び委員業務

—実績—

1. 退院症例における日々の診療記録点検
(退院症例数9,923件)
2. 院内がん登録全国集計に参加
2015年度登録症例数：943件
(府内928件・府外15件)
3. 地域がん登録
4. 傷病名マスタ管理：972件 更新
5. 各統計加工・分析：120件
6. 診療録開示対応(内容点検)：108件
7. 情報セキュリティ研修(HI-UP 研修)
8. 診療情報管理委員会事務局活動 抜粋
 - 1) 退院翌日から14日以内のサマリ記載率が90%以上維持するよう努めた
 - 2) 診療記録の運用調整
 - 3) 診療記録様式の作成と改訂

- 4) 保管記録の整理(院外、院内)
- 5) 診療記録等保管スペースの調整

—今年度の成果と反省点—

2016年度は、目標の1つであった情報セキュリティの研修としてHI-UP研修を実施することができた。来年度以降も継続して実施する予定である。

また診療記録等に対する課題やがん登録、各統計加工業務について概ね達成できたが、年度途中で発生した人事異動の影響で情報発信の点では至らない部分もあった。

—来年度への抱負—

2017年度は、診療情報管理運営の基盤作りとして質の高いスタッフの確保と養成を目標とする。次いで情報発信力の強化、医療の裏付けとなる記録の充実化および病院運営の支援についても積極的に行いたいと考える。